

通知表の形式・見方について

観点別評価をしています

全国の小学校では、児童一人ひとりが学習活動によってどのような学力が身につけているのか、知識の量のみでなく、「生きる力」としての自らの学び、自ら考える力がどれだけ育まれているかという点を明確に示す『観点別評価』をしています。

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点を授業の中で大切にしたい観点として、学年ごとに評価項目を設け3段階評価をしてあります。

1～6年生の「特別の教科道徳」及び、3・4年生の「外国語活動」、「総合的な学習の時間」の評価は、学期ごとに分けて記述式で示してあります。

1年生は、「学習の様子」は、そのねらいについて到達の度合いを「B」「C」2段階で表しています。

「B」…学習目標に到達していると判断されるものです。

「C」…努力を要すると判断されるものです。

3学期から、学習目標に対して、十分に到達したと判断されるものは「A」とし、3段階になります。

「生活の様子」は、「よい…○」「もう少し…△」として、特に顕著な場合にのみ印をつけることで学校のようなすを3段階で表しています。

「知識・技能」

知識…各教科において習得すべき知識や重要な概念等をどれだけ理解しているか。

技能…各教科において習得すべき技能を身につけているか。

例えば、計算や運動技能などのことです。

「思考・判断・表現」

知識・技能を活用して課題解決のために必要な「思考力・判断力・表現力」を身につけているか。例えば、学習したことを活かして、自分なりの方法で考えたり、必要な情報を集めたりして、自分の考えを適切に表現する力です。

「主体的に学習に取り組む態度」

それぞれの教科の学習内容や学習対象に対して関心をもち、進んでそれらを調べようとしたり、学習したことを生活に活かそうとしたりする力です。

のびゆく記録は、子どもの励みになり、個々の持つ能力を精一杯伸ばしていくための資料として活用してほしいと考えています。子どもの、努力して良くなったことをほめて、「次の学期もがんばろう」と、これからの学習や生活に意欲的に取り組めるような会話が、ご家庭の中でなされることを願っています。

評価の方法は？

評価は、テストなどの学習後だけでなく、学習中にも行っています。
いくつかを紹介します。

- ・発言の様子

学習中の発言内容、態度をみます。

- ・取り組みの様子

問題解決の過程、友達や教師との関わり、授業中のひらめきやつぶやきなどをみます。

- ・自己評価

学習後の児童自身の評価や感想・振り返りから学習内容の把握具合をみます。

- ・ノート、ワークシート

自分の考えをどのように表現しているかなどの取り組み状況、理解度などをみます。

- ・作品、成果物

取り組み状況、技能、表現力をみます。

- ・テスト

ショートテスト等や单元ごとに到達度をみます。

